

【水の里の旅コンテスト 2021 応募企画】

応募者名：【学生部門】桜美林大学渡邊ゼミ

【タイトル】	水が運んだ歴史と文化を感じる二日間		
【サブタイトル】	～江戸優り佐原にタイムトリップ～		
【都道府県名】	東京都、千葉県	【地域名】	(東京都) 中央区、墨田区、(千葉県) 野田市、香取市
【日程】	<input type="checkbox"/> 日帰り ・ <input checked="" type="checkbox"/> 1泊2日 ・ <input type="checkbox"/> 2泊3日 ・ <input type="checkbox"/> その他 ()		
【実施時期】	<input checked="" type="checkbox"/> 春 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 夏 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 秋 ・ <input type="checkbox"/> 冬 ・ <input type="checkbox"/> 通年 / (実施時期: 4月から10月)		
【催行人員】	12名 (最小催行人員: 6名)	【お勧めする旅行者層】	30代以上の女性
【旅行代金】	スタンダードコース 27,030円 デラックスコース 45,630円 (大人1名)	【代金内訳】	・ 交通費 (マイクロバス) 1人1万円 ・ 体験費 (日本橋～両国、佐原での舟乗り体験) 日本橋～両国間 1人3,750円、佐原 大人1人1,300円 ・ 見学費 (江戸東京博物館) 一般 600円 ・ 食費 (一日目の昼食・カフェ・夕食) 昼食 (コメスタにて) 1,380円、 カフェ (oniwaにて) 1,000円、 夕食 (うなぎ割烹山田本店にて) 3,400円 ・ 宿泊費 スタンダードコース (旅館一蘭荘に宿泊) の場合 1人5,600円 デラックスコース (NIPPONIAに宿泊) の場合 1人24,200円～
【企画趣旨 (伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント)】			
<p>日本では、陸路の輸送が一般化する 100 年ほど前までは水運での輸送に頼っていた。地方や都市で生産された物資や農産物は、海や川などの水運により運ばれ、社会経済を発展させた。水運によって形成された中心都市は栄え、地方都市には新たな文化をもたらすことにもつながった。</p> <p>利根川は江戸時代、輸送における国の中枢を支える大動脈であった。当時、利根川下流からは、米、醤油、酒などが地方から江戸に運ばれ、復路では呉服や日用品が届けられた。</p> <p>千葉県佐原はこのような、利根川の水運で栄えた商都の中の一つである。江戸時代には「江戸優り佐原」と言われるほど栄えていた。現在でも中心の小野川沿いを中心に情緒あふれる街並みが残っている。近年は建物の外観は維持したまま内装を現代調にリノベーションして再利用している例も多く見られ、佐原の人々はそういった歴史ある町並みや建物の保全にも力を入れている。</p> <p>このツアーでは、参加者が「川」が輸送の不可欠な要素であったという事実と歴史を博物館などの見学を通して知り、理解した上で、川と水運が作り出した美しい文化やゆかりの食に触れて、「水の里」である「川」の恩恵を再認識できる一泊二日の旅である。参加者には日常の忙しさから一歩離れて少しの贅沢を楽しんでいただきたい。</p>			
【インバウンド対応のための工夫】(※任意)			
インバウンドの方が参加する場合は適時外国語のガイドを手配します。			

【 催 行 実 績 】	<p>※当該企画が催行されている場合や、催行されている別企画を元に一部変更したものは有に☑してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 有 → いつ催行されましたか： ※募集ホームページアドレス（ある場合のみ）：</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 無 → 今後の催行予定はありますか： <input type="checkbox"/> 有 → いつごろ催行予定ですか： <input checked="" type="checkbox"/> 無</p>
【 特 記 事 項 】	

【エントリーシート 別紙】

【 行 程 表 】

<p>1 日目</p>	<p>【8:15】日本橋駅集合→→【8:30】乗船し、江戸時代水運で使われていた川から大都会東京を眺める（ガイド付き）→→【9:30】両国船着場到着→→【9:45~11:00】江戸東京博物館にて江戸時代の水運について学ぶ→→【11:45~12:45】地産地消や野田名物の「醤油」が使われているレストラン「コメスタ」にて昼食→→【13:00~14:15】野田市のキッコーマンもの知りしょうゆ館にて工場見学→→【14:30~15:30】古民家カフェ「oniwa」にてデザートとドリンクを食べながら休憩→→【16:00~16:15】江戸時代荷下ろしで使われていた木下河岸を見学→→【16:40~17:10】下総利根宝船公園にてトイレ休憩→→【17:30~18:30】うなぎ割烹山田本店にて夕食→→【18:45】ホテル到着</p> <p>※ ホテルは「旅館 一蘭荘」（一泊 5,400 円）もしくは「NIPPONIA」（一泊 24,200 円～）のどちらかを選択していただきます。どちらも朝食付きの料金です。</p>
<p>2 日目</p>	<p>【10:00】チェックアウト→→【10:15~11:30】佐原の町並み歩き（地元のボランティアガイド付き）→→【11:30~13:20】自由時間（昼食含む）→→【13:30】佐原の町を見上げながら舟めぐり→→【14:00】船着場到着→→【14:15~15:00】道の駅 水の郷さわらにて自由時間→（荷下ろし場所であった津宮鳥居河岸を通過）→【15:10~16:30】香取神宮にて自由時間→→【17:45】日本橋駅にて解散</p> <p>※ …徒歩 …舟 …貸切マイクロバス にて移動となります。</p>

【主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産物など）】

<p>ポイント1</p>		<p>日本橋～両国までの舟乗り体験（ガイド付き） 提供：舟遊びみづは</p> <p>日本橋川と神田川を通って、日本橋川から両国へ移動します。これらの川は江戸時代の水運に使われていた川でもあり、普段見ている景色を下から眺め、大きな橋をいくつもくぐり抜けるのは日常生活ではできない体験です。乗船中にはガイドさんに水運についてのさわりのお話をさせていただきます。水運をテーマにしたツアーの幕開けには相応しい移動手段です。</p> <p>写真提供：舟遊びみづは</p>
<p>ポイント2</p>		<p>江戸東京博物館での見学</p> <p>『江戸東京博物館』は、約2,000点の歴史の資料のほか、ジオラマや原寸大の復元模型があり、江戸時代の様子が立体的に展示されています。「E5 江戸と結ぶ村と島」のフロアでは、江戸と水運で結ばれていた場所や物資について、自分で触れて学ぶことができます。ここで江戸の歴史と文化について詳しく知ることによって、今後の見学箇所への理解が深まります。</p> <p>写真提供：東京江戸博物館</p>

ポイント3



もの知りしょうゆ館での工場見学、自由時間

江戸時代、水運を通して栄えた街の一つである佐原から江戸に運ばれていた物資のひとつに醤油が挙げられます。江戸と佐原は江戸川と利根川で結ばれており、その水運ルートで醤油の材料も運ばれていました。それによって、水運ルートの中継地である野田では醤油の生産が盛んになりました。もの知りしょうゆ館では工場見学が可能で、醤油ができる流れや、醤油の歴史などを学ぶことができます。自由時間では広い館内を自由に動いていただき、美味しい醤油をはじめとしたお土産を購入していただくことも可能です。

写真提供：もの知りしょうゆ館

ポイント4



佐原の町並み歩き 現地ボランティアガイド同行

佐原は江戸時代の水運によって栄え、現存する街で、関東地方で初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された場所です。今も小野川沿いでは、江戸の風情が残る町並みを感じることができます。佐原の街に点在する商家や古民家をリノベーションしたおしゃれなカフェなども複数あり、江戸情緒あふれる佐原の街でグルメやデザートを楽しむことができます。地元のボランティアガイドに案内していただいた後は自由時間でたくさんのお店の中から好きな場所で昼食を取っていただきます。

写真提供：水郷佐原観光協会

ポイント5



小江戸さわら舟めぐり

小江戸と呼ばれる佐原の街並みを眺めながらのんびりと川下りを楽しみ、東京で体験した舟めぐりとは全く違う景色を見ることができます。また、船頭さんが佐原の街並みの歴史もお話していただけます。佐原の街並みを舟から見上げることができ、歩いて巡った時とは別目線で楽しむことができます。

写真提供：水郷佐原観光協会

ポイント6



香取神宮

全国に約400社ある香取神社の総本社です。パワースポットとしても知られています。江戸時代後期の水運が発達した後は水運ルートで物だけではなく、人も運んでいました。江戸から船に乗って香取神宮を訪れる人も多かったようです。また利根川から訪れる人は、利根川沿いにある津宮浜鳥居をくぐってきていました。津宮浜鳥居旅の最後に今後のご利益を願うことができます。香取神宮の到着前にバスから津宮浜鳥居をご覧ください。